令和3年度第1回シンポジウム

廃棄物処理システムにおける脱炭素化に向けた普及促進方策に係るシンポジウム

2021 年 10 月 18 日
廃棄物資源循環学会
環境省

［趣旨］　2050 年までのカーボンニュートラル達成に向けて、廃棄物分野では、一般廃棄物の焼却や埋立処分に伴う直接的な温室効果ガス排出の抑制のほか、収集運搬過程における燃料使用や、中間処理施設等の稼働に伴う電力使用等によるエネルギー起源 CO_2 等の排出抑制等を総合的に講じていく対策が求められている。また、脱炭素化は、同時に第５次環境基本計画（平成 30 年４月閣議決定）で提唱された地域循環共生圏の創造と併せて進展していくことが必要である。

今後、プラスチック資源循環戦略に基づくマテリアルリサイクルの推進、製品素材の転換等に伴う廃棄物の質・量の大きな変化への対応を踏まえつつ、地域が目指すべき気候変動に対応した持続可能性を踏まえ、各地域の廃棄物エネルギーを最大限活用する自立・分散型の廃棄物処理システムの形成が有効である。すなわち、廃棄物処理施設が地域エネルギーセンターや防災拠点等の機能を併せ持つことで、廃棄物を地域資源とした地域循環共生圏を形成し、「気候変動×レジリエンス」及び地域循環共生圏の同時実現を可能とする。

以上の趣旨を踏まえ、廃棄物資源循環学会および環境省では、廃棄物分野における脱炭素・持続可能性、地域循環共生圏形成をテーマにシンポジウムを開催することとした。

第１回シンポジウムでは、脱炭素化及び地域循環共生圏への先進的取組を行う自治体等の事例について御報告いただき、パネルディスカッションにより廃棄物分野における脱炭素化及び地域循環共生圏形成に向けた地域間の連携や効果的なシステム等について、多角的視点から意見交換を行うものとする。

［主催］　環境省、廃棄物資源循環学会
［日時］　2021 年 11 月 8 日（月）13:30～17:00　（受付は 13:00 より開始）
〔会場〕　WEB開催
［定員］　150名（事前申込み制）、自治体関係者を優先
［参加費］　無料
［参加申込］　学会ホームページ（https://jsmcwm.or.jp/?page_id=23185）からお申込みください

［プログラム］

13:30～13:35　開会の挨拶　学会会長　東北大学教授　吉岡敏明
司会・進行　学会副会長　日鉄エンジニアリング㈱顧問　長田守弘

13:35～14:05　脱炭素化に向けた普及促進方策（30 分）　環境省廃棄物適正処理推進課　山田浩司

14:05～14:35　地域における資源循環促進と地域経済への波及効果（30 分）　（一社）循環のまちづくり研究所代表
–福岡県大木町・みやま市の取組、筑後七国の長期構想を例に–　中村修

14:35～15:05　地域循環共生圏と廃棄物系バイオマスの利活用（30 分）　真庭市総合政策部部長　有元均

15:05～15:35　脱炭素化と資源循環に向けた自治体と企業の連携(30分)　佐賀市企画調整部バイオマス産業推進課
前田修二

15:35～15:40　会場整備(5分)

15:40~16:40　パネルディスカッション(60 分)
コーディネーター：　公益財団法人京都高度技術研究所理事・副所長　酒井伸一
パネラー：　山田浩司・中村修・前田修二
藤原健史（岡山大学学術研究院 環境生命化学学域教授）
永田綾（京都市環境政策局地球温暖化対策室ｴﾈﾙｷﾞｰ政策部長）

16:40～16:50　閉会の挨拶　学会理事　㈱神鋼環境ソリューション部長　秩父薫雅